

# Play Back 2012 中国・清鎮

[プレイバック 2012]



ジュニア女子は、メダルを独占。左から上原、秋山、矢野

最初の種目となったジュニア女子は、1周2kmのコースを3周する6kmで行われ、日本勢は5人が出場。実質、中国勢との対決となった。1周目は中国勢3選手を含む8人の集団で、6分41秒で通過した。2周目に集団がばらつくと、上原美幸(鹿児島女高・鹿児島)、矢野菜理(北九州市立高・福岡)の2人が先頭争いを展開。2秒遅れて秋山桃子(白鵬女高・神奈川)が続いた。日本勢同士の優勝争いは、ラストスパートに勝る上原が20分26秒で制した。矢野は3秒遅れの2位だった。秋山も3位に入り、日本勢が1~3位を独占、団体でも圧勝を飾った。また、青木奈波(立命館宇治高・京都)が5位、荏苒麻衣(人間環境大岡崎高・愛知)が6位と健闘を見せた。

シニア女子は、8kmで実施。序盤からパーレーン勢がハイペースでレースを進めると、最初の1周目こそ新谷仁美(佐倉アスリート倶楽部)ら日本勢4人も付いていったが、2周目から後退した。だが、2周目以降もペースを保った新谷が、トップ3を独占したパーレーン勢に次いで4位に入る健闘を見せた。その他は若手主体だったが、田中幸(スポーツ山形21)が8位、鈴木亜由子(名古屋大)が9位、田村紀薫(松山大)が10位となり、団体戦は、パーレーン、中国に続いて3位となった。



パーレーン勢が3位までを独占したシニア女子では、4位に新谷が入った



団体が圧勝したジュニア男子。左から山本、馬場、町澤

好成績を残したジュニア女子の勢いを受けて、ジュニア男子も大活躍を見せた。2kmを4周する8kmで行われたレースには、日本勢は5人が出場。序盤から優勝争いを牽引した。先頭集団は、1周目に8人に絞られると、2周目に1人、3周目にもう1人が脱落し、日本勢5人と中国人1人の計6人で最終ラップに入った。優勝争いは最後までつれづれだったが、馬場翔大(倉敷高・岡山)が接戦を制し、優勝を果たした。2位には3秒遅れて山本雄大(須磨学園高・兵庫)、3位には2位と同タイムで町澤大雅(市立柏高・千葉)、4位には上村和生(美馬商高・徳島)、6位に小山裕太(豊川工高・愛知)と、上位を独占し、団体戦でも日本が圧勝を飾った。

シニア男子は、序盤からパーレーン勢が先頭争いを牽引。日本勢4選手も序盤は食らいついた。だが、2周目以降、じわりじわりとペースが上がると、付いていくことができず、日本勢は2番手(6位)集団の中心となった。結局、パーレーン勢が1~5位までを独占し、団体戦も圧勝。日本勢は、急遽代表に選ばれた斎藤勇人(Honda)が日本人トップで6位。三津谷祐(トヨタ自動車九州)が7位、元村大地(東海大)が8位、梅枝裕吉(NTN)が10位に入り、団体戦では2位に入った。

※所属は当時